

# 園だより



第 13 号

令和 8 年 3 月 13 日

ばんけい幼稚園

## 江戸時代の子育てから学ぶ 不易と流行

園長 増子 義仁

皆様、本年度もばんけい幼稚園の運営にご協力をいただきありがとうございました。盤溪小学校の教頭を務めていた平成 28 年以来 10 年ぶりに盤溪に戻り、改めてこの地域の良さをじっくりと味わうことができた 1 年でした。就任してすぐに親子山登りに参加し、「アズキナ (山菜)」と「ホウチャクソウ (毒草)」の区別ができる子どもたちに驚愕したことは、今でもはっきりと覚えています。

さて、近年は情報端末の進化が著しく、スマホや AI とどう向き合っていくかを幼児期から考えなければならない時代になってきました。このように子育ての常識は時代と共に変わっていくものですが、人が成長していくためには、いつの時代でも大切にしなければいけない不易の部分があることも間違いないと思います。

右に記述したのは相手を尊重することを大切にしている江戸時代の子育て論、「三六九の子育て力」と言われるものです。

- (1) 3 歳までに、無条件に大人の愛を伝え、子どもの心を育む
- (2) 6 歳までに、日常生活の作法・ルールを伝える
- (3) 9 歳までに、正しい言葉遣いによって相手とコミュニケーションがとれるように育てる
- (4) 12 歳までに、文字を使って思いを伝えることができる、計算ができるように育てる
- (5) 15 歳までに、世の中の流れ、物事の意味や不条理に触れ、理解を得られるように育てる

15 歳で元服となり大人とみなされる江戸時代の子育て論はいかがでしょう。今の時代の私たちにも参考になる、不易の子育て感があると感じませんか。

来週火曜日は卒園式です。青組の子達は、幼稚園を巣立ち小学校という新しい世界に飛び込んでいくこととなります。遊びが中心だった幼稚園から学習が中心の小学校に進学することに不安がある方も多いのではないのでしょうか。懇談会でもお話ししましたが、幼稚園での主体的・自発的な遊びを通して、子どもたちは遊びに夢中になり、遊びをより楽しくするための方法を考えることで、課題解決のサイクルを体感的に学んできました。この力をしっかりと使えば小学校の学習課題にも取り組んでいけるはずですが、建物も人もシステムも全く異なる小学校では戸惑うこともあるのは事実だと思います。そんな 1 年生の戸惑いを解消するために、現在はこの小学校にも【スタートカリキュラム】が存在します。段差を無くすのではなく、スモールステップで一步ずつ着実に越えていくことが小学生になるということです。

最も大切なことは、「分からないことをわかったふり」にしたり、「困っているのに困っていないふり」をしたりせずに、「分からない。」「困った。」と先生や周りの人に伝えることができる力です。そうすれば必ず誰かが助けてくれますので、安心して小学校に楽しく通って欲しいと願っています。

青組さん、卒園おめでとう。

おひさまさん、赤組さん、緑組さん、1 年間よく頑張りました。4 月からたくさん遊んで、友達と仲良く過ごして、成長しましょう。

### 江戸時代の子育て

三つ心 六つ躰 (しつけ)  
九つ言葉 十二文  
十五理 (ことわり) で未決まる。